

平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

| | | | | | | |
|------|----|------|----|------|----|------|
| 第2学年 | 国語 | 145人 | 社会 | 145人 | 数学 | 145人 |
| | 理科 | 145人 | 英語 | 145人 | | |

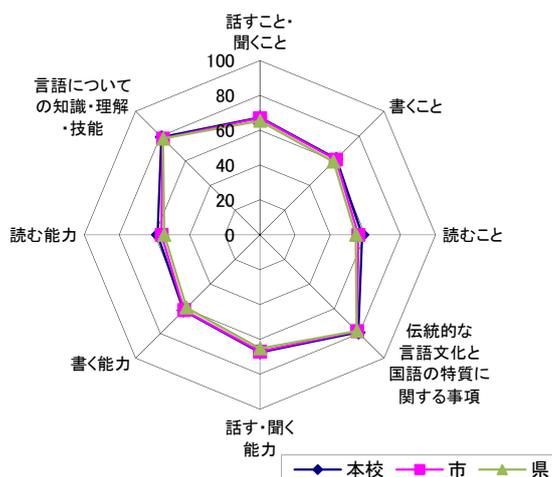
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと | 67.4 | 67.0 | 65.3 |
| | 書くこと | 61.5 | 61.1 | 59.2 |
| | 読むこと | 58.2 | 56.0 | 54.5 |
| | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 79.2 | 78.2 | 78.0 |
| 観点 | 話す・聞く能力 | 67.4 | 67.0 | 65.3 |
| | 書く能力 | 61.5 | 61.1 | 59.2 |
| | 読む能力 | 58.2 | 56.0 | 54.5 |
| | 言語についての知識・理解・技能 | 79.2 | 78.2 | 78.0 |



★指導の工夫と改善

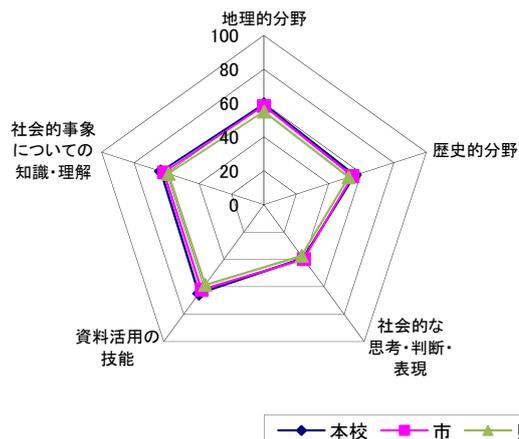
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------------------|--|--|
| 話すこと・聞くこと | ○市の平均を0.4ポイント、県の平均を2.1ポイント上回っている。司会者の話し合いの進め方の工夫や話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをまとめる力がある。 ●自分の考えとの共通点と相違点を整理して聞くことについて記述する問題の正答率が下がる。 | ・音声教材を使った聞き取りの練習を継続して行うことで、話の趣旨を正確に聞き取る力をつけさせる。また、授業の中で先生の話や級友の意見を聞きながら、メモを取る訓練を計画的に行う。 |
| 書くこと | ○市の平均を0.4ポイント、県の平均を2.3ポイント上回っている。目的に応じて推敲する力がついてきている。 ●文章の書き方の工夫について記述する問題の正答率が下がる。 | ・継続して授業の中に小作文や短作文を書かせる作業を取り入れて、内容をまとめたり自分の意見や考えを作文したりする習慣を身につけさせる。 |
| 読むこと | ○市の平均を2.2ポイント、県の平均を3.7ポイント上回っている。接続詞の果たす役割を理解し、文章の展開に即して内容を把握することができる。描写を踏まえて登場人物の心情を捉えることができる。 ●場面の展開や描写を基に、登場人物の人物像を把握し、記述する問題の正答率が下がる。 | ・授業の中で文章の展開に即して内容をとらえる作業に重点を置きながら、接続詞に注目して要旨をとらえる方法や指示される内容を理解する力を継続して身につけさせる。 ・朝の読書活動を通じてさまざまな文学作品に触れさせる。また、授業でも文章に即した人物の心情や作品の主題を読み取り、文脈に即した語句の意味の理解を確実にしていく。 |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | ○市の平均を1.0ポイント、県の平均を1.2ポイント上回っている。漢字の読み書き、歴史的仮名遣いや文節の分け方、表現技法などは大変よくできている。 ●漢字の「請け」の読みの正答率が39.9%と低くなっている。 | ・漢字プリントを家庭学習の課題とし、間違いを直して返却、定期的にテストを行うことで漢字力の確実な定着を目指す。毎週漢字練習ノートを提出することで、漢字の読み書きの練習に対する意識を高め、習慣化を図っていく。 |
| | | |

宇都宮市立国本中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 地理的分野 | 59.5 | 58.4 | 55.0 |
| | 歴史的分野 | 56.0 | 54.6 | 52.2 |
| | 社会的な思考・判断・表現 | 39.1 | 39.8 | 37.5 |
| | 資料活用の技能 | 64.9 | 62.3 | 58.7 |
| | 社会的事象についての知識・理解 | 63.6 | 61.7 | 59.0 |



★指導の工夫と改善

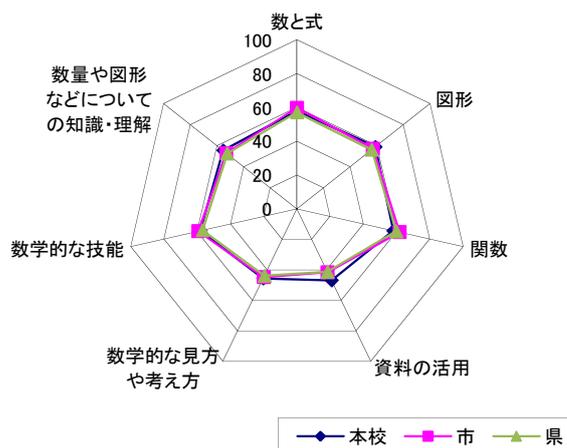
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|---|---|
| 地理的分野 | <p>○本年度は市の平均を0.9ポイント、県の平均を4.5ポイント上回った。資料活用の技能、社会的事象についての知識・理解も市、県の平均を上回っている。</p> <p>●社会的な思考・判断・表現については県の平均を1.6ポイント上回ったが、市の平均を0.7ポイント下回った。</p> | <p>・基本的な知識の定着を今後も継続していく。それと同時に、短文記述や資料からわかることをまとめるなど、文章で表現する力を身に付けさせる。</p> <p>・語句を書かせる問題よりも、選択式問題に弱い傾向が見られる。曖昧な理解に陥っている場合があるので、小テストなどを行い、用語の理解を定着させる。</p> <p>・複数の資料を比較し、答えを導き出す問題が苦手である。資料の比較や変化などが読み取れるよう、授業で指導していく。</p> |
| 歴史的分野 | <p>○歴史的分野も県の平均を3.8ポイント、市の平均を1.4ポイント上回った。</p> <p>●基礎の問題はおおむねできているが、活用の問題が苦手な傾向がある。</p> | <p>・得意な生徒と苦手な生徒との差が大きく開いた問題が数問あった。年表などを利用し、歴史の大まかな流れを定着させたい。</p> <p>・資料から読み取ったことを記述する問題では、おおまかな要点は押さえているものの、内容が不十分である生徒が多く見られる。小テストなどでも短文記述の問題に慣れさせていく。</p> |
| | | |

宇都宮市立国本中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|-------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 数と式 | 58.0 | 59.8 | 57.0 |
| | 図形 | 58.9 | 57.1 | 56.1 |
| | 関数 | 58.1 | 61.8 | 59.8 |
| | 資料の活用 | 46.9 | 41.6 | 41.4 |
| 観点 | 数学的な見方や考え方 | 45.7 | 44.9 | 43.9 |
| | 数学的な技能 | 58.1 | 59.4 | 56.8 |
| | 数量や図形などについての知識・理解 | 55.3 | 53.0 | 52.3 |



★指導の工夫と改善

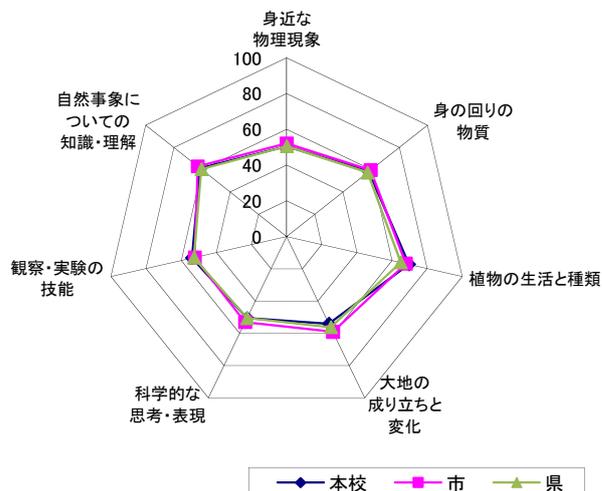
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|--|---|
| 数と式 | ○県の平均を1.0ポイント上回っている。基本的な計算がよくできている。 ●市の平均を1.8ポイント下回っている。計算の中でも、分数や累乗がふくまれる式の正答率が低い。 | ・基本的な計算の反復練習は今後も継続していく。さらに、生徒が苦手とする分数をふくむ式や複雑な計算の解き方を定着させ、正確に答えを出せるようにする。 |
| 図形 | ○県の平均を2.8ポイント、市の平均を1.8ポイント上回っている。図形の基礎や作図が比較的よくできている。 ●図形が複雑なものになるとやや正答率が落ちる。 | ・今後は図形の応用問題にも積極的に取り組ませ、難解な問題にも対応できるようにさらに力をつけていく。 |
| 関数 | ○技能の観点からみると県の平均を1.3ポイント上回っている。 ●県の平均を1.7ポイント、市の平均を3.7ポイントと全体的に下回っている。 | ・1年の比例と反比例の学習をふまえ、1次関数の理解を深め、基礎を定着させる。文字式、比例、連立方程式などを総合したり、とらえなおしたりする。また、グラフをかいたり、そこから式を読み取ったりできるようにする。 |
| 資料の活用 | ○県の平均を5.5ポイント、市の平均を5.3ポイント上回っている。資料を正確に読み取り、そこから正しい判断ができている。 ●他の単元に比べ、正答率が全体的に低い。 | ・統計的な手法の習得だけでなく、それらを日常生活の中で、自ら解決策を探したり意思決定をさせたりすることにつなげていきたい。 |
| | | |

宇都宮市立国本中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 身近な物理現象 | 50.6 | 52.1 | 50.5 |
| | 身の回りの物質 | 58.3 | 59.6 | 57.4 |
| | 植物の生活と種類 | 69.6 | 67.8 | 64.9 |
| | 大地の成り立ちと変化 | 54.0 | 59.1 | 56.3 |
| 観点 | 科学的な思考・表現 | 50.6 | 53.1 | 50.6 |
| | 観察・実験の技能 | 53.9 | 52.4 | 52.7 |
| | 自然事象についての知識・理解 | 61.4 | 63.1 | 60.5 |



★指導の工夫と改善

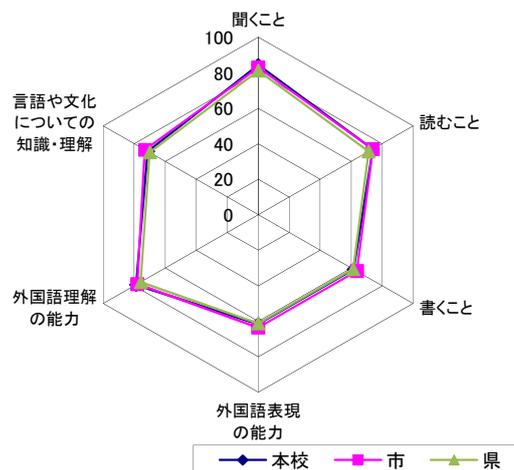
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|------------|--|--|
| 身近な物理現象 | ○県の平均を0.1ポイント上回っている。弦の長さや音の高低、振動数の関係が分かる。水溶液の質量パーセント濃度を求める正答率が高い。 ●市の平均を1.5ポイント下回っている。物体にはたらく重力の表し方、音の波形での大きさや高さを説明する。密度を求めて物質の種類を特定する正答率が低い。 | ・計算力はあるが、その計算に至るまでの科学的な考え方ができるように、順序立てた考え方を身につけさせる。また、実験では、考察を大切にしていこうとする。 |
| 身の回りの物質 | ○県の平均を0.9ポイント上回っている。ガスバーナーを正しく操作する手順が分かる正答率が高い。 ●市の平均を1.3ポイント下回っている。水溶液中の溶質のようすを表す粒子のモデルを推測する正答率が低い。 | ・グラフから傾向を読み取ったり、目に見えない物への考え方・イメージなどを身につけさせる工夫をしていく。 |
| 植物の生活と種類 | ○県の平均を4.7ポイント、市の平均を1.8ポイント上回っている。アブラナとマツの胚珠の位置がわかる。対照実験について光合成についての考察をする。種子をつくらない植物のふやし方がわかる。実験から光合成によってできる物質がわかる。項目の正答率が高い。 ●対照実験の結果から、植物のはたらきを推測する正答率が低い。 | ・これからもできるだけ実物を見せ観察したり、実験で見せられるような授業の展開を心がけ、結果や考察を大切にしていこう。 |
| 大地の成り立ちと変化 | ○実験の結果と登山による気圧の変化を関係付ける。地震のゆれの記録から震央の位置を推測する。の項目がポイントが高い。 ●県の平均を2.3ポイント、市の平均を5.1ポイント下まわっている。実験結果をもとに、「かこう岩のでき方を推測する。」「白色や無色の好物の種類がわかる。」「地層の堆積環境を推定する化石の名称がわかる。」の項目について正答率が低い。 | ・特に、火山・岩石について興味を持たせ、基本的な知識を身につけさせていく。 |
| | | |

宇都宮市立国本中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 聞くこと | 84.4 | 82.9 | 81.2 |
| | 読むこと | 73.9 | 73.9 | 71.2 |
| | 書くこと | 61.6 | 63.6 | 61.2 |
| 観点 | 外国語表現の能力 | 61.6 | 63.6 | 61.2 |
| | 外国語理解の能力 | 78.9 | 78.1 | 75.9 |
| | 言語や文化についての知識・理解 | 71.3 | 73.2 | 70.1 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|---|---|
| 聞くこと | <p>○市の平均を1.5ポイント、県の平均を3.2ポイントと全体的に上回っている。数の聞き取りや通学方法の聞き取りなど短い対話文の聞き取りはよくできている。</p> <p>●短い対話文の中でも、2つ以上の項目を聞かれたり、まとまりのある文の聞き取りは少し正答率が落ちる。</p> | <p>・何が問われているのかを意識させ、キーワードを聞き取ることが出来るように指導する。</p> |
| 読むこと | <p>○県の平均を2.7ポイント上回っている。対話文や長文などまとまりのある英語の読み取りは比較的よくできている。</p> <p>●文法の理解が低く、人称代名詞や応答文にあう英文を読み取ることは平均を下回る。</p> | <p>・人称代名詞を意識した会話活動を取り入れ、会話表現の中で文法を理解出来るように指導する。</p> |
| 書くこと | <p>○県の平均と同じくらいである。過去形の疑問文や、対話の中での疑問文に関してはよくできている。</p> <p>●市の平均は下回っており、How many～?の文が正しく書けない。またテーマに基づいて英作文することが苦手な傾向にある。</p> | <p>・基礎的な英文を繰り返し書くことで、文法の理解力を上げ、語彙力がつくようにする。またそれを活用し、自己表現出来るように指導する。</p> |
| | | |

宇都宮市立国本中学校 第2学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家の人と学校のできごとについて話をしている。」については77.8ポイント、「家の人と将来のことについて話すことがある。」については71.5ポイントと比較的高く、市、県の平均を上回っている。特に「将来のことについて話すことがある。」では県の平均を7.3ポイント上回っており、家族との会話が深くされているように思われる。

○「学習して身に付けたこと、将来の仕事や生活の役に立つと思う」との回答は91.7ポイントと高く、県の平均よりも5.9ポイント上回っている。また、「将来の夢や目標をもっている」との項目については市の平均を1.5ポイント、県の平均を2.4ポイント上回っており、自分の夢や目標について学習が役立つと感じている生徒が多いことがわかった。

○「授業の内容がよくわかりますか」という項目では、国語の86.7ポイントを筆頭に、社会、数学、理科、英語もおおよそ70ポイントと多くの生徒が授業の内容をきちんと理解していることがわかった。「授業を集中して受けている」という項目も88.2ポイントと高く、熱心に授業に取り組んでいる成果が出ていると思われる。また、「先生は学習のことについてほめてくれる」という項目では市の平均を8.5ポイント、県の平均を11.2ポイント上回っており、教師からほめられることが多いと感じており、このことも学習内容がわかる、授業に集中するということに影響をあたえていると考えられる。今後も授業の工夫改善を行い、より多くの生徒がわかる授業を行い、生徒の努力を認め、ほめていく指導を行っていく。

●「自分は家族の大切な一員だと思う」との項目では市の平均を4.6ポイント、県の平均を3.3ポイント下回っている。また、学校のできごと、将来については家族と話す、「家の人と学習について話をしている」との項目では市の平均を5.1ポイント下回っており、学習に関しては家庭では話さない傾向があるように思える。

●「早寝、早起きを心がけている」では市の平均を9.5ポイント、県の平均を7.7ポイント下回っている。また、「家での決まりや約束を守っている」では市の平均を5.2ポイント、県の平均を4.5ポイント下回っており、基本的な生活習慣について課題が見られる。

●「家で、学校の授業の復習をしている」、「家でテストで間違えた問題について勉強をしている」との項目は市、県の平均を共に下回っており、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」との項目も市、県の平均を約5ポイント下回っている。家庭学習の習慣を身に付けさせるとともに、何のために学習するのかを学級等で考えさせ、前向きに取り組む姿勢を身に付けさせたい。

●「自分には、よいところがあると思う」、「自分の行動や発言に自信をもっている」、「自分はクラスの人役に立っていると思う」などの項目ではいずれも市、県の平均を5～9ポイント下回っている。生徒のよいところを見つけ、ほめる指導を行い、生徒に自己肯定感や自己有用感を持たせるようにしたい。